

乳癌ハイリスクグループでの読影法

企画 天野康雄 日本大学医学部附属病院 放射線科

編集 久保田一徳 東京医科歯科大学医学部附属病院 放射線診断科

序説

乳腺の画像診断は、マンモグラフィ、超音波、MRIといった各モダリティにおいて、ガイドラインに基づくスタンダードな読影法やカテゴリー分類が確立されている。検診で検出された病変の評価や術前の検査が日常的に行われ、必ずしも乳腺を専門としない放射線科医でも乳腺の読影を行うことが一般的になってきていると思われる。これまで本誌でも乳腺の画像診断についてたびたび取り上げられ、具体的な読影方法についても示されてきた。乳腺の画像診断はとても奥が深い「シンプルに病変を検出し、正しく評価する」ことが最も大切であると考ええる。

乳癌は女性において最も多い癌で、死亡数も増加しており、検診で適切に早期発見を行うことが大事である。一方、乳癌発症のハイリスクグループに対しての適切な対応を行うことも大事であると考えられるようになってきた。遺伝子検査、家族歴あるいは組織診断により、乳癌ハイリスクグループと考えられる場合でも、通常の被検者と同様の読影法やカテゴリー分類でよいのか、また異なるならばそのポイントは何かは、これまであまり解説されてきておらず、必ずしも明確ではなかった。

本特集では乳癌ハイリスクグループについて、

- ①わが国における考え方や対応方法を理解する
- ②MRIを中心とした検査方法・読影法を明らかにする
- ③乳房トモシンセシスや乳房専用PETなどの検査について解説する

以上の項目について、実際にどう読影し、どう対応すればよいのかわかるよう、具体的な症例を用いて執筆いただいた。これから増えていくハイリスク症例に対してだけでなく、日常の臨床にも応用いただくことができると思われる。

本特集の編集を任命くださった天野康雄先生、日ごろ快くご指導くださる乳腺領域の諸先生方、ならびにお忙しいなか執筆くださった乳腺診断のエキスパートの先生方に深く感謝致します。読者諸氏におかれましては、これを機会に、乳腺画像診断に興味をもっていただければ幸いです。

久保田一徳

1. 乳癌発症ハイリスクグループに対する対策と課題----- 1480
2. 乳癌ハイリスクグループに対する乳房トモシンセシスの適切な利用方法----- 1485
3. 乳癌ハイリスクグループでのMRI検査方法ーMRIガイド下乳房生検ー----- 1494
4. 乳癌ハイリスクグループでのMRI診断----- 1500
5. 乳癌ハイリスクグループでのPETの使用法----- 1506